

第2期

# やってみゆ〜で・わがまち ささえあいプラン

平成28年度～平成32年度

【長崎市地域福祉計画・地域福祉活動計画】



長崎市  
社会福祉法人 長崎市社会福祉協議会

## は じ め に



少子高齢化が進み社会環境が大きく変化する中、皆で力を合わせないと解決できない問題が増えてきています。地域においては様々な地域の課題を解決するために、たくさんの方々が協力し合って地域活動に取り組まれており、「当事者が多いまちは元気なまち」と感じています。これから長崎市が目指すのは、皆が当事者としてできることを少しずつ出し合う「全員プレーヤー型のまち」です。

誰もが住み慣れた地域で、安心していきいきと暮らしていくために、市民一人ひとりがお互いさまの気持ちで、当事者としてできることの範囲を少しずつ広げながら支え合い、そして、市役所は、市民の皆さんによる地域活動を、縁の下の力持ちとして支援する体制をつくる必要があります。

長崎市では、平成 22 年度に第 1 期地域福祉計画を策定し、地域における支え合いの取り組みを支援してまいりました。その間、地域では、高齢者や子どもたちへの日頃の見守りやいざという時の支援体制づくりなどを通して、支え合いの力が少しずつ強くなりつつあります。

第 2 期地域福祉計画は、これまで形づくられてきた地域での取り組みが継続され、また、新たな芽が生まれて育ち、それぞれの地域にあった支え合いのしくみが広がることを願って策定いたしました。

この計画では、市内で行われている地域活動の事例やヒントをたくさん紹介しています。ぜひ皆さんに手にとっていただき、行動するきっかけにさせていただくことを期待します。

「大きな変化の時代」である現代。将来を見据え、誰もが安心して暮らせるまちに向け、全員がプレーヤーとなって、一緒に取り組んでいきましょう。

おわりに、計画策定にあたり、貴重なご意見、ご提案をいただきました地域コミュニティ推進審議会の皆様、市民アンケートにご協力いただいた皆様をはじめ、ご尽力をいただきました多くの方々に心からお礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

長崎市長 田上 富久



近年の急速な少子・高齢化による人口減少、核家族化、一人暮らし世帯等の増加や地域コミュニティの希薄化などにより、地域社会を取り巻く環境は年々変容しており、特に、経済情勢や雇用環境の厳しさ等から貧困や社会的孤立、虐待の問題など、現状の社会福祉制度では十分に対応しきれない生活課題・福祉課題が生じており、その内容も複雑かつ多様化しています。

さらに、各地で発生している災害では、地域住民の助け合いによる救助活動に見られるように、改めて、人と人のつながりや地域で支えあうことの大切さを感じたところです。

このような状況の中、平成23年3月に長崎市と協働で策定した「やってみゅ〜で・わがまちささえあいプラン」に基づき、各種事業に取り組んできた結果、少しずつではありますが地域福祉の動きが各地区に広がりつつあります。

そこで、第2期計画では、地域の課題を解決する鍵は、「地域での支え合いの力」をもっと強くしていくことが重要であるため、「支え合いの力が強くなる地域のしくみづくり」を計画のひとつの柱として第2期「やってみゅ〜で・わがまちささえあいプラン」を長崎市と協働で策定いたしました。

これらを踏まえ、社会福祉協議会としましては、誰もが⑤だんの④らしの中で①あわせを感じられる笑顔あふれるまち"ながさき"を目指し、地域の社協支部や自治会、民生委員・児童委員、老人会、青少年育成協議会等の各団体同士の連携・協力による支え合いの力を醸成し地域福祉の基盤づくりができるように積極的に地域福祉の推進に取り組んでいきます。

今後の計画実現に向け、市民の皆様や関係機関・団体の方々と手を携えながら、地域福祉の推進に努めてまいりますので、今後もより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり貴重なご意見と多大なるご協力を賜りました各委員の皆様、関係各位の皆様に対しまして、心からお礼を申し上げます。

平成28年3月

社会福祉法人 長崎市社会福祉協議会  
会長 西崎 武博



一般に、福祉のまちづくり（地域福祉の推進）には大きく二つの視点が必要だといわれています。一つは対象となる地域全体を見据えつつ、その地域の強みや特徴（地域力）を活かしながら、地域の絆やまとまりのレベルをさらに押し上げていこうとする視点です。この点について長崎市では、すでに自治会の方々の熱心な取り組みや地域のお祭り、伝統行事の開催等を通して活発に動いているところも少なくありません。

これに加え、もう一つ必要といわれている視点があります。それは、どの地域にも暮らしの困りごとや悩みごとを抱えている個人や家族がいらっしゃるわけですが、そのような人たちに対して必要な支援がピンポイントで届けられるよう、普段から支援のしくみを地域の細部にも用意しておくという視点です。

同じ地域への対応にもかかわらず、前者は地域全体を見据えるという意味合いでマクロ（巨視）的視点、後者は特定の個人や家庭に焦点づけられる意味合いでミクロ（微視）的視点とすることができます。この両者を仮に人体に例えるならば、前者は免疫療法のように身体全体の基礎体力や免疫力をつけて様々な事態に備える予防的な対応といえるのに対して、後者は特定の病巣に向けられた放射線治療のような、事後の対症療法的対応といえるかもしれません。

ご承知のように長崎市は、海と山が隣接する素晴らしい景観を幾つも抱えるまちですが、最終的には、そこに住む住民一人ひとりの安心感や満足度を満たすことが出来なければ、たとえどれだけ景観が優れていても、その人にとっては「暮らしやすいまち」とはいえません。広域的な対応にのみ気を取られ、住民一人ひとりへの支援体制が忘れられることのないようにしたいと思います。同時に、個別的な支援の成否には、広域的な地域の連携や絆のあり様が大きく関わってくることに也十分配慮しておきたいと思います。豊かな土壌があってこそ、支援の芽も豊かに実を結ぶという展開です。

今回、第2期計画の策定過程では、上記したような内容に関する協議を複数回重ねてきました。少しずつですが、動き始めた小地域単位での支え合いのしくみづくりが、全体としてこの長崎をより一層暮らしやすいまちに変えて行く足がかりになっていけば幸いです。

平成28年3月 長崎市地域コミュニティ推進審議会会長 中野 伸彦  
(長崎ウエスレヤン大学現代社会学部教授)

# 目次

<b>I 計画の考え方</b> .....	<b>1</b> ページ
1 地域福祉の必要性 .....	2 ページ
2 地域福祉計画・地域福祉活動計画とは	
(1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画の位置付け .....	4 ページ
(2) 計画策定の趣旨 .....	5 ページ
(3) 計画の期間 .....	5 ページ
3 地域福祉の課題	
(1) 「地域の気になるところ」の傾向 .....	6 ページ
(2) 地域福祉の課題 .....	10 ページ
<b>II めざす地域福祉の姿</b> .....	<b>11</b> ページ
1 めざす地域福祉の姿 .....	12 ページ
(地域福祉の3つの視点、計画の2つの柱、計画の体系図、地域の範囲とその特性)	
2 地域福祉を推進するために .....	17 ページ
<b>III 具体的に取り組むにあたって</b> .....	<b>33</b> ページ
柱1 支え合いの力が強くなる 地域のしくみづくり	
(1) 顔の見える関係が生まれる 地域の土壌づくり	
① 顔の見える関係をつくろう .....	34 ページ
② 地域活動へ参加してみよう .....	36 ページ
(2) 支え合いが育ちやすい 地域の環境づくり	
① 地域の交流の場・居場所をつくろう .....	39 ページ
② 地域のお助け人を増やそう .....	45 ページ
③ 地域内のまとまりや連携を強くしよう .....	47 ページ
(3) みんなで支え合う 地域のしくみづくり	
① 日頃の見守り・支援のしくみをつくろう .....	50 ページ
② いざという時の助け合いのしくみをつくろう .....	58 ページ
柱2 一人ひとりに合った生活しやすい環境づくり	
① 相談機能・支援体制を上手に使おう .....	61 ページ
② 生活環境の向上策を上手に使おう .....	65 ページ
地域活動や行事の紹介 .....	66 ページ

<b>IV 計画の推進・進行管理</b> .....	<b>75</b> ページ
1 計画の推進・進行管理 .....	76ページ
<b>V 参考資料</b> .....	<b>77</b> ページ
1 計画の策定方法	
(1)福祉のまちづくり やってみゆ〜で・わがまち座談会の開催 .....	78ページ
(2)市民意識調査結果概要 .....	79ページ
(3)地域活動の担い手アンケート調査結果概要 .....	82ページ
(4)計画策定体制 .....	90ページ
(5)計画策定の取り組み状況 .....	94ページ
2 長崎市の地域福祉を取り巻く現状	
(1)人口 .....	95ページ
(2)世帯 .....	99ページ
(3)地域の人的資源 .....	100ページ
3 その他	
(1)長崎市よかまちづくり基本条例 .....	102ページ